

令和 5 年 度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

校訓「自立 共生 信愛」を指針として、自主的精神と創造的活力に満ち、思いやりの心をもつ個性豊かでたくましい人間の育成を目指す。

「自立」……社会人としてたくましく育つこと

「共生」……多様な人々の中で調和のある社会を築き上げていくこと

「信愛」……豊かな心を育て、互いに敬愛しあう人間関係を形成すること

2 学校の特徴

本校は、定時制単位制でかつ通信制科目も受講できる高校で、普通科（昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間）と福祉教養科（昼間Ⅰ部）を設置している。加えて、県民カレッジ新川地区センターを併設し、地域の生涯学習の拠点としての役割も担っている。

昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間の枠を越えた幅広く柔軟な受講選択が可能であり、多彩な科目の中から、生徒は各自の進路目標に合わせた時間割をつくることができる。

多様化する生徒への対応として、習熟度別講座や基礎から発展までの様々な科目の開講、少人数での授業や個別指導、個別の支援計画作成等、生徒一人一人の進路の実現に向けた支援を行っている。

福祉教養科では、介護職員初任者研修の130時間に相当する講座を平成26年度から開講した結果、昨年度まで13名の修了者があった。

部活動では、運動部は毎年のように北信越大会や全国大会に出場しており、文化部は年2回の校内発表を行っている。また、ボランティア活動や校外体験学習も重要な学習と位置づけ、特別養護老人ホームと協力した里孫活動や全校生徒で行う地域環境美化活動等の活動を通して地域に貢献し、地域で育まれる学校を目指している。

さらに県民カレッジ新川地区センターの併設を生かし、高校生が社会人と共に学ぶことにより、大人ひいては地域と関わりながら、共生の心の涵養に努めている。

3 学校の現状と課題

近年、不登校を経験したことのある生徒や様々な悩みや問題を抱えている生徒が増加しているため、スクールカウンセラー3名とスクールソーシャルワーカー1名が配置されている。また、平成24年度に文部科学省の特別支援教育総合推進事業の指定校として実践・研究を行って以来、ソーシャルスキルの育成及びキャリア教育の実践を進めているほか、平成30年度後期から自立活動の「通級」が導入され、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上を目指した講座「サポートスタディ」を開設している。関係教員を中心として、サポートスタディの指導内容について模索しているところである。

進路指導では、従来の指導に加え、多様な生徒の就労に対応するために、入学当初から関係機関とも連携しながら支援をより充実させる取り組みを行っている。現在は確立した支援へのシステムづくりを構築しているところである。

学力差の拡大も大きな問題で、数学と英語は習熟度別授業を実施している。また、少人数での授業や学び直しのための学校設定科目「数学入門」などをも実施しており、今後、このような試みをより広げていく必要がある。